

## 2021年度賃金引き上げ夏季手当第7回団体交渉 社員にだけ負担を押し付けるな！ 役員報酬返上わずか10%、リニア建設続行！

本部は3月25日、「2021年度賃金引き上げ、夏季手当等の再申し入れ」(『申第24号』)に基づく団体交渉を開催し、ベースアップ6,000円、夏季手当3.5ヶ月、専任社員への50,000円増支給などについて、改めて会社に満額回答を求めました。

会社は、現場の社員の苦労よりも役員の待遇やリニア建設を優先し、それどころか、赤字を盾として、ベースアップゼロや低額ボーナス回答が当たり前の姿勢に終始しました。

本部は、「新型コロナ禍の状況の中、現場の社員が苦労して第3四半期を黒字に押し上げた。その苦労に応えるべきである。そもそも、痛みを負う順序が狂っている。社員に赤字を押し付ける前に役員は報酬を全額返上すべき。将来にわたり一番負担の重いリニア建設は中止するべき。そうしないということは、会社には相当な余裕があるということである」などと会社を追及しましたが、会社の姿勢を崩すことはできず、団体交渉は決裂となりました。この結果について本部は持ち帰り検討としました。

### <主なやり取り>

組合：会社回答は、定期昇給のみの回答であった。厳しい一年ではあったが、第3四半期は他の運輸関係が赤字であったにもかかわらず、JR東海は黒字を出した。これは、現場の社員がコロナ禍の中、利用される方に安心して乗れるという信頼感を得たからだ。このような社員のがんばりについてどうなのか。これも含めて夏季手当が2.2ヶ月ということなのか。

会社：がんばっていただいたことは分かっている。第3四半期についても黒字であった。しかし、第3四半期のみを見ているわけではない。第4四半期はまた厳しい状況にあるし、今日時点で昨年よりも下回っている状況である。前回よりも改善されていることもなく、このような回答とした。

組合：現時点、乗客の乗りはすごく増えている。

会社：データ上、前々年比40%にも満たない。前年比でも100%になっていない。今までがあまりにも少なかったので、多く感じるのではないか。

組合：自由席に立って乗っている人もいる。ホームにも行列で並んでいる。

会社：そうだと嬉しいが。そもそも列車本数が少ないので、乗客が集中してしまうかもしれない。

組合：経営陣の報酬について、他の会社では多く返上している。JR東海はどうなのか。10%自主返納だろう。

会社：発表している通り。

組合：定昇についての考えは回答と同じなのか。

会社：JR東日本は定昇を2つとしているし、JR西日本はまだ分からないが、それよりは良いのではないか。

組合：JR東日本は2つ減っても平均3、200円の昇給となっている。JR東海は、乗数4などと言っているが、たった400円しか上がらないではないか。冗談でない。

会社：それは人による。

組合：JR東海の定昇の平均はいくらなのか。

会社：それは、ちょっと…出す考えはない。

組合：定昇自体は相当低い。昇格しなければ上がらないようになっている。定昇などあってないようなものだ。

会社：JR東海は、JR東と違って、がんばった人が報われるように制度を変えた。

組合：何を言っている、がんばっても報われない制度だ。

会社：それは見解の違いだ。等級や職名が上がれば4倍くらい上がるので、試験を受けて合格して上がってもらいたい。

組合：何を言っている。試験を受けても、がんばっても受からない。会社の言っている昇給の意味が違う。

会社：賃金制度は定昇だけではない。昇格時昇給なども含めた制度である。

組合：制度はそうかも知れないが、そもそもそんな制度全く認めていない。だいたい、今は定昇の話、ベースアップの話をしているのではないか。

会社：それならば、回答の通りである。そのような考えはないというのが回答である。

組合：だから、それはいかなものか、考えを変えろと言っている。

会社：そういう意見も分かるが、会社の考えは言った通りである。

組合：社員の夏季手当について、安定的支給ベースよりも下がっている。役員報酬はどうなっているのか。

会社：発表している通りである。

組合：夏も冬も大幅なダウンである。

会社：業績が落ちているのだから、減るのは当然である。

組合：なぜ安定的支給ベースよりも下げたのか。

会社：この間議論してきた。

組合：会社の考えはおかしいと言ってきた。

会社：赤字ですから。

組合：ならば役員報酬などみんな返上したら良い。

会社：役員報酬も下げている。

組合：たった10%ではないか。

会社：程度について見解の違いはあるが。

組合：社員の方が減らされている。

会社：そのようなことはない。

組合：安定的支給ベースについて、他労組にも説明していると思うが、JR東海労にする説明と同じ説明なのか。

会社：当然である。そもそも安定的支給ベースがこういうものであるというものがない。

組合：今後黒字になっていたら、安定的支給ベースに依らず、儲かった分出すのだな。

会社：そのようなことは言っていない。安定的支給ベースというものがあったので、それをベースとして活用していた。そのベースを無くすとも言っていない。

組合：結局会社が都合よく使うだけではないか。

会社：そのようなことはない。今は赤字だから、それをベースとはしないとやっている。

組合：会社の都合ではないか。

会社：今後業績が回復したときには、またそういう議論ができるように、力を合わせて業績を良くしましょうということである。

組合：努力などしなくとも、業績などいずれ回復する。

会社：他力本願か。

組合：原因はコロナではないか。コロナが収まれば戻るに決まっている。今のコロナの状況の中で社員は努力しているのだ。努力して、このような状況であっても黒字に持っていったのである。それに応えろと言っている。

会社：努力していることを全く見ていないわけではない。

組合：安定的支給ベースについてJR東海ユニオンの情報に書かれていたが、安定的支給ベースについて会社と認識を一致したと書いてあった。

会社：どういう意味かは分からない。

組合：会社が主張したことについてJR東海ユニオンが理解したということなのか。

会社：JR東海ユニオンではないので、何とも言えない。

組合：現回答が目一杯ということなのか。

会社：そうである。

組合：リニアへ投資しなければ現状でも黒字になる。

会社：そのようなことはない。キャッシュフローを見ていただければ分かる。

組合：投資を止めればこんなに苦しい思いはしなくても良い。

会社：止めることは考えていない。

組合：いい機会だから、思い切って止めるべきだ。

会社：そのような議論ではなく、賃金の議論である。

組合：だから、止めればベアもボーナスもまともに出せる。

会社：止めることはない。止めることを前提とした話はできない。

組合：状況が80%くらいまで回復したとして、会社が黒字に戻ったら、現場社員にお礼として一時金とか考えないのか。

会社：そのときは状況に応じて議論をすれば良いと思う。

組合：去年の経協では、6月に8割くらい戻ると予想をしていたが、今はどのくらいの予想をしているのか。

会社：まだ分からないので、業績予想を継ぎ足して出している。

組合：今、乗客数は伸びている。緊急事態宣言も解除された。

会社：そうではあるが、ところで在来線はどうなのか。

組合：在来線は特に影響などないのではないか。これからの季節、特急列車の乗客は増えるかも知れない。

会社：戻って、業績回復が何よりだと考えている。

組合：現場では、やはり2.2ヶ月について不満が出ている。最低でも安定的支給ベースを求めている。

組合：年末手当のときは中間決算をみて2.2ヶ月とした。そのときよりも業績は少しは改善されたのだから、同じ2.2ヶ月というのはおかしいではないか。

会社：前は2.9から2.2で、今回は2.7から2.2なので、下げ幅が少なくなっている。

組合：何を言うか、それこそ良いと取りだ。普通、そういう風に考えないだろう。前回よりも改善されているのだから、同じではなく、2.3とか2.4とか、プラスがあって当たり前ではないか。

会社：出発点が違う、下げ幅は減らしている。

組合：都合よく言っているだけではないか。

組合：これまでも言ってきたが、痛みを負う順番が違う。役員がわずか10%だけの返上で、何で社員がこんなに下げられなければならないのか。このことは全社員が納得していないと思う。JR西日本は社長が50%も返上している。

会社：役員はボーナスだけではなく、毎月毎月返上している。

組合：何度も言ってきたが、役員の破格の報酬と社員の雀の涙の賃金にどれだけ差があると思っているのか。役員報酬の1割など社員の年収以上だ。

会社：気持ちがあることは分かったが、これ以上答えようがない。

組合：それと経費の使い方、投資、やはりリニアだ。リニアやっているのに、

なんでボーナスを減らされなければならないのかと、社員全員思っている。モチベーションの上がる要素が全くない。コロナ禍で、命をかけてこんなにかんがっているのに、この回答かよ。これでモチベーションが上がるはずがない。

会社：モチベーションを上げるのに、お金が全てとは考えていない。

組合：何を言うか、お金だ。他に何かあるというのか。

会社：そういう意味でも会社としては2. 2ヶ月と、会社としては結構出したと考えている。全員が同じように考えているとも思わない。

組合：会社の団交委員以外の社員、全員同じ考えだと思っている。

組合：この前、職場の若い社員が、今度JR東日本に行くことになりましたと、ニコニコして嬉しそうに挨拶をしてきた。これが本当の気持ちなのではないか。

会社：どうしてか、何が良いのか、当社よりも賃金が高いのか、分からない。

組合：JR東海的环境が悪すぎるからではないのか。今回の回答からしても、その子を慰留する気にもならなかった。同業他社に再就職されるくらい屈辱的なことはない。そういうことを考えたらどうか。

会社：今、一般的に転職自体が相当増えていると聞いている。

組合：一般的ではなく、同じような会社への転職である。

会社：仕事の内容は全然違うのではないか。何かやりたいことがあるのではないか。

組合：JR東海という会社が嫌だから変わったのではないか。

会社：誰が何のために変わったというのとは分からない。

組合：変わりたいと思われない会社にすべきだ。

会社：転職自体は否定しない。個々の事情がある。

組合：社員を大切にしていると思えない。

組合：今回、会社からの回答にあたっての差出人が、人事部長になっていた。今までは社長名だった。

会社：そのとき、そのときの判断である。どちらにするかは会社が決めることである。今回は人事部長名で出したということである。

組合：今回人事部長名とした理由は何か。

会社：会社が判断したということである。

組合：答えになっていない。判断した理由を聞いている。

会社：社長名が良かったのか。

組合：人事部長よりは社長の方が良いのではないか。重さが違う。

会社：人事部長も十分重い。

組合：人事部長が軽いとは言っていない。こういうひどい回答なのだから、社長が責任を持つべきだ。

会社：定期昇給の標準乗数は人事部長が定めるとなっている。

組合：話を戻すが、回復傾向なのだから上乘せすれば良い。

会社：説明した通り、まだ赤字なのだからそのような考えはない。

組合：この回答に対して、ここで、はいそうですかとはいならない。

会社：完全に理解してほしいとはいならないが、分かってほしい気持ちはある。

回答として出せるラインはこれが限界である。

組合：限界とは思えないから議論してきた。議論してきたように、会社には余裕がある。

会社：余裕はない。繰り返しである。

組合：そんなことはない、余裕がある。結局そこに戻ってくる話だ。

会社：それにしても6,000円や、3.5ヶ月は絶対無理だ。

組合：何を言う、無理なことではない。今回もまた低額だったため、今回はその分もさらに上乗せの要求だ。

組合：役員がのほほんとして10%しか返納していないのに、納得などできない。余裕の象徴だ。会社も体力はあるとハッキリと言いつつ切っていた。

会社：事業運営のために体力は必要である。

組合：リニア建設を中止しないということは、健全経営をしているということだ。社員へ負担を強いることは健全とは言えない。

会社：これまで説明した通りである。

組合：1回くらい、上乗せを検討しますとか言えないものなのか。今まで全て会社の決めた通りになっている。

会社：再申し入れをいただいて、1週間で変化もないので。

組合：妥結しない場合は。

会社：支給できない。

組合：労組法上、過半数以上の組合が妥結すれば右にならえというものなので。

会社：そういうふうに当社はしていない。各組合と団体交渉をしている。組合の主張だと、団体交渉をする意味がなくなるのではないか。妥結しなくても構わないということでやっているわけではなく、妥結してほしいという考えである。

組合：妥結のリミットはあるのか。

会社：年度末までにはいただきたいと思う。ボーナスに関しては6月の支給に間に合うように、5月上旬か、手続きがあるので。

組合：定昇も妥結しないと定昇なしなのか。

会社：制度なので…。

組合：昇給はされるのか、されないのか。

会社：ボーナスと同じ考えで…。

組合：400円しか上がらないが、賃金規程の話だから、昇給はされるのではないか。

会社：妥結しないということか。

組合：納得できないからな。

組合：ベアがあった場合は。

会社：ベアがあった場合は配分交渉があるので、今年はベアがないので配分交渉がないから…、ベアがないことも含めて賃金引上げについて妥結する、しないことについて確認をいただきたい。

組合：中央執行委員会は来月だから。

会社：お任せするが、会社としては年度内に返事をいただきたい。

組合：持ち帰り検討する。

組合：ところで、話しは変わるが、前々回の団交のときに、今回のダイ改から沼津運輸区の家庭用交番表の出退勤時刻が記載されなくなったことについて言ったが、支社に確認はされたのか。

会社：そういう話があったということは共有している。内容は支社が対応する事柄である。

組合：一応、その後に、出退勤の時刻が入った交番表が配られた。

以 上